

① 下関市戦没者・戦災殉難者合同追悼式



開催概要（平成24年度）

歳事名：下関市戦没者・戦災殉難者合同追悼式
会場：下関市体育館
（JR下関駅より サンデン交通バス「東駅」下車 徒歩1分）
日時：平成24年10月28日（日）※例年10月下旬開催
参列者数：約1,300人
連絡先：下関市福祉政策課 083-231-1418（直通）

式次第（平成24年度）

1. 開式の辞
2. 君が代齊唱
3. 黙とう
4. 市長追悼の辞
5. 来賓追悼の辞
6. 献花
7. 遺族代表謝辞
8. 閉式の辞
9. 一般遺族献花

追悼の辞（平成24年度）

追悼の辞

本日ここに、戦没者・戦災殉難者のご遺族並びに関係各位、多数のご参列のもと、合同追悼式を挙行するに当たり、全市民を代表し、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

終戦から67年の歳月が過ぎ去りました。

あの苛烈を極めた戦いの中で、家族を案じ、郷土を思いつつ、心ならずも戦場に倒れ、戦禍に遭われ、あるいは戦後、遠い異郷の地で、数多くの方が飢えや病に苦しみながら帰らぬ人となりました。また、激しい空襲により、お年寄りや女性、子どもの別なく尊い生命が無残にも奪われました。

これらの方々の無念を思うとき、悲痛の思いが尽きることなく込み上げてきます。改めて、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

そして、最愛の肉親を亡くされ、決して癒されることのない悲しみを抱えながら、郷土の再建と発展に尽力されたご遺族の皆様のご努力に対し、深く敬意を表します。

私たちは、過去を謙虚に振り返り、戦争の悲惨さを思い、今日の平和で豊かな繁栄は、家族や祖国のために命を落としたされた幾多の尊い犠牲があったということを決して忘れてはなりません。

本日この式典にあたり、真に平和な世界を実現するために、一層の努力を惜しまないことを改めてお誓い申し上げ、戦没者・戦災殉難者の御靈（みたま）の安らかならんこと、そしてご遺族の皆様のますますのご健勝をお祈りし、私の追悼の言葉をさせていただきます。

平成24年10月28日
下関市長 中尾 友昭

② 清和園の地蔵尊（幸せ地蔵）



基本情報

所 在：幸町保育園前、市営住宅 清和園アパート 隣
 住 所：山口県下関市幸町18-6
 (J R下関駅より 車5分)
 連絡先：町内会有志
 建立者：市民有志
 建立年：昭和40年代 中頃

碑 文

なし

経 緯

…(昭和20年) 7月2日午前零時10分頃、(下間に) 第2回目の空襲がありました。

(中略)

…当時、清和園に逃げた70何人の人が空襲時の火災が原因で全員焼死んだということがありました。その1週間ばかりあとに老婦人が「主人の供養をしてくれ」と寺にされました。話を聞いてみると、その老婦人を含めた70何人は、消防活動をしながら火勢に追われて次第に清和園の高台に登ることになったと申します。ところが、下界は一面の火の海、その火が高台の側面を周囲から這い登って、しかもそれは上に逃げないで、高台の上面をなでるようになめたそうで、またたく間に焦熱地獄となりました。

(中略)

最初は衣服に付いた炎を払っていましたが、次第にそれもむつかしくなり、誰からともなく、みんな念佛を唱え始めました。そして、その声が1人減り、2人減りして、ついに途絶え、ただ何かが焼ける音のみが、しばらくは続いていたそうです。

出典：西之端本通会結成20周年記念「にしのはし」(昭和47年2月刊)
 多田了道(教法寺)証言より



③ 平和記念碑



※写真提供 麻里布地区自治会連合会

基本情報

所 在 : 麻里布町第三街区公園
 住 所 : 山口県岩国市麻里布町3-9-1
 (JR岩国駅 徒歩10分)
 連絡先 : 麻里布地区自治会館 0827-21-2655
 建立者 : 岩国市
 建立年 : 昭和34年7月10日

碑 文

平和記念碑

昭和20年8月14日 岩国駅前大空襲
 昭和34年7月10日 駅前慰靈塔建立
 平成5年8月14日 平和記念碑として移設

追悼施設

④ 岩国駅前戦災死没者慰靈祭



※写真提供 麻里布地区自治会連合会

開催概要 (平成24年度)

歳事名 : 岩国駅前戦災死没者慰靈祭
 会場 : 麻里布町第三街区公園 ※平成24年度は雨天のため麻里布自治会館にて開催
 (JR岩国駅 徒歩10分)
 日時 : 平成24年8月14日(火) ※例年8月14日開催
 参列者数 : 80人
 連絡先 : 麻里布地区自治会連合会 0827-21-2655

式次第 (平成24年度)

1. 黙 棄
2. 読 経
3. 祭 祀 : 木村建彦連合会会長
4. 慰靈の言葉 : 岩国市長・岩国市議會議長
5. 燃 香
6. 電報披露
7. 閉 会

慰靈の言葉 (平成24年度)

慰靈の言葉

本日ここに、麻里布地区自治会連合会主催による平成二十四年度岩国駅前戦災死没者慰靈祭がご遺族の皆様方並びに関係の方々のご列席のもと執り行われるにあたり、謹んで慰靈のことばを申し上げます。

先の大戦が終わりを告げてから六十七年目を迎えました。

我が国は、終戦の混乱の中から立ち上がり、現在、国際社会に貢献する成熟した平和国家となりました。

ふるさと、岩国の地もまた、豊かな地域を育み平和な暮らしがおとずれています。

慰靈碑がございますこの児童公園も今では、昔々とした芝生が根付き、市民の憩いの広場となっており、先日も、市民の皆様の手で清掃が行われ、今日の日を迎えております。

ここに、空襲で亡くなられました皆様の無念に思いをはせ、在りし日のお姿をお偲び申し上げ、謹んで哀悼の意を表するものでございます。

また、ご遺族の皆様方には、戦後の混沌とした中で、幾多の困難を乗り越え今まで歩んでこられました、そのご努力とご苦労に、改めて敬意を表する次第でございます。

大戦から六十七年の歳月が過ぎ、戦争を知らない世代が増えしていく中で、市民一人一人が、岩国での空襲の事実を今一度深く心にとどめ、戦争による尊い犠牲と悲しみの記憶を再認識し、次の世代に継承していくことが、私たちの使命であると思つております。

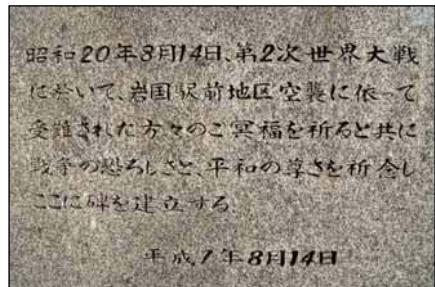
今、皆様がよなく愛したふるさと岩国は新しいまちづくりが動き出し、大きな飛躍の時を迎えております。

私も、この新しいまちづくりをより一層推進し、安全で安心して暮らすことのできる岩国の実現に向けて、市民の皆様とともに、全力で取り組んでまいりますことをお誓いするものであります。

ここに、ご遺族の方々をはじめ、皆様とともに、御靈の安らかならんことを心からお祈りし、慰靈祭を主催されました麻里布地区自治会連合会並びに関係の方々に敬意を表しまして私の慰靈のことばをいたします。

平成二十四年八月十四日
 岩国市長 福田良彦

⑤ 和（爆弾投下中心地）



基本情報

所 在：JR岩国駅 西口
住 所：山口県岩国市麻里布町一丁目
(JR岩国駅 徒歩1分)
連絡先：不明
建 立 者：不明
建 立 年：平成7年8月14日

碑 文

【表】

和

昭和20年8月14日、第2次世界大戦に於いて、岩国駅前地区空襲に依って受難された方々のご冥福を祈ると共に戦争の恐ろしさと、平和の尊さを祈念しここに碑を建立する

平成7年8月14日

【裏】

爆弾投下中心地



⑥ 光市戦没者追悼式



※写真提供 光市

開催概要（平成24年度）

歳事名：光市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
会場：光市民ホール
（JR光駅より 中国J-Rバス「島田市」下車 徒歩5分）
日時：平成24年8月18日（土）※例年8月中旬開催（第3土曜日）
参列者数：220人
連絡先：光市 福祉総務課 福祉総務係 0833-74-3000（直通）

式次第（平成24年度）

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 開 | 式 |
| 2. 国 歌 齊 唱 | |
| 3. 黙 と う | |
| 4. 式 辞 | 光市長 市川 熙 |
| 5. 追 悼 の 辞 | 光市議会議長 中本和行 山口県知事 二井関成
山口県遺族連盟会長 市來健之助 |
| 6. 献 花 | |
| 7. 児童合唱ひかりによる合唱 | |
| 8. 光紙芝居による紙芝居上演 | |
| 9. 閉 式 | |

式辞（平成24年度）

本日ここに、戦没者ご遺族並びにご来賓を始め、多くの方々のご参列を賜り、平成24年度光市戦没者追悼式を挙行するにあたり、戦禍の犠牲になられた方々の御靈に対し謹んで哀悼の誠を捧げ、光市連合遺族会・光「回天」の会・光市連合婦人会・光市老人クラブ連合会・海光会及び光市を代表して式辞を申し上げます。

終戦から67年の歳月が過ぎました。先の大戦においては、多くの方が祖国を思い、家族の安泰を願いながら、戦場に散り、戦禍に倒れ、遠い異郷の地で亡くなられ、国内におきましても、激しい空襲により数多くの尊い命が失われましたことは、私たち日本国民にとって永遠に忘れることができない深い悲しみであります。

遺族の皆様におかれましては、最愛の肉親を失われた深い悲しみに耐え、幾多の苦難を乗り越えて、今まで歩んでこられましたご労苦を拝察いたしますと、痛惜の念を深くするものであります。

私は、去る8月14日12時20分、光海軍工廠空襲追悼の鳴り渡るサイレンに合わせ黙祷し、本市における多くの犠牲者のご無念に思いを馳せ、今日の繁栄の礎となられた多くの御靈に対して、追悼の誠を捧げ、市民の皆様とともに、世界の恒久平和実現への誓いを新たにしたところであります。

今や戦争の悲劇を知らずに育った世代が全人口の8割に迫る中、私たちは、先の大戦で学んだ幾多の教訓を決して風化させることがってはなりません。

（中略）

本日の戦没者追悼式にあたり、多くの御靈の御遺志を受け継ぎ、真に平和で豊かな社会を実現するために、悲惨な戦争で日本国民が負った苦しみ、そして、ここ光市を襲った大空襲の真実を忘ることなく、後世に伝え、恒久平和への誓いを新たにいたしますとともに、光市の限りない発展のため、市民の皆様とともに更に力を合わせて、「やさしさ」あふれるまちづくりに全力で取り組んで参りますことを、ここにお誓い申し上げます。

終わりに、戦没者の御靈の安らかならんことを、そして、御遺族並びに御列席の皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げまして、式辞といたします。

平成24年8月18日
光市戦没者追悼式実行委員長 光市長 市川 熙

⑦周南市戦没者追悼式



※写真提供 周南市

開催概要（平成24年度）

歳事名：周南市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：周南市文化会館
 　　（JR徳山駅 徒歩20分 防長交通バス「動物園文化会館入口」下車 徒歩1分）
 日時：平成24年5月10日（木） ※例年5月10日開催
 参列者数：500人
 連絡先：周南市 福祉部 生活支援課 福祉調整担当 0834-22-8465（直通）

式次第（平成24年度）

1. 開式のことば
2. 一同一挙
3. 国歌齊唱
4. 黙とう
5. 追悼の辞：周南市長、山口県知事、周南市議会議長、周南市連合遺族会会长
6. 献花
7. 主催者あいさつ
8. 閉式のことば

追悼の辞（平成24年度）

本日ここに、戦没者のご遺族をはじめ、来賓の方々多数のご列席をいただき、平成24年度周南市戦没者追悼式を執り行うに当たり、先の大戦において、国内外における苛烈な戦いの中で、ひたすら祖国の安泰を願い、愛する家族の身を案じながら戦禍に倒れられた4千5百余名の本市出身の戦没者及び戦災死亡者の方々に対しまして、謹んで哀悼の意を表しますとともに、心からの御冥福をお祈り申し上げます。

また、かけがえのない最愛の肉親を失いながらも、その深い悲しみを乗り越え、今まで戦没者のご供養とともに、地域社会の発展に尽力してこられましたご遺族の皆様に、衷心より感謝と敬意を捧げます。

先の大戦が終結して67年の歳月が過ぎ、戦争を直接知る世代が少数となる今日ですが、私たちの平和な毎日は、ひとえに戦没者の尊い犠牲の上に陪われたものであることを未来永劫忘れてはなりません。

この悲惨な戦争の教訓を風化させることなく、平和の尊さを次の世代に語り継ぎ、再び悲しみの歴史を繰り返さないことが、私たちに課せられた責務であり、犠牲となられた方々に報いる道であると確信しております。

本日の追悼式にあたり、戦没者の方々のふるさとへの思いを生かすべく、市民と職員そして地域が共に手を携え、力と知恵を結集し、安心安全に暮せ、人のいのちが最優先の魅力的なまちづくりに全力を尽くしていくことをお誓い申し上げます。

終わりに臨みまして、戦没者の方々の御靈が永久に安らかありますようお祈りし、併せて、ご遺族並びにご列席の皆様方のご平安とご健勝を心から祈念申し上げまして追悼のことばといたします。

平成24年5月10日
 周南市長 木村 健一郎

⑧ 太平洋戦争被災復興ここに成る



基本情報

所 在：代々木公園
住 所：山口県周南市代々木通2丁目
(J R徳山駅 徒歩5分)
連 絡 先：周南市 0834-22-8211 (代表)
建 立 者：徳山市(現周南市)
建 立 年：昭和35年9月28日

碑 文

【表】

太平洋戦争被災
復興ここに成る

【モニュメント・裏】

徳山市戦災復興誌

一、罹災状況

昭和二十年五月十日	空襲
昭和二十年七月二十六日	空襲
罹災面積	一、〇八〇、〇〇〇坪
焼失家屋	四、六二二戸
罹災人口	一六、五一二人
罹災死没者	四八二名

二、戦災復興聖過

徳山市は山口縣中部に位し海陸要衝の地であり 且この地方の産業経済文化の中心地として繁栄してきた明治三十八年海軍練炭所が開設せられ大正十年に燃料廠に改められ戰時は燃料基地として海軍要港となり飛躍的發展の途上不幸にも戦火に因り本市幾世代に亘って築かれた歴史的建設が一朝にして灰燼に帰し茫然自失の状態であったが、ほうはいたる復興の意欲に立ち上り禍を転じて福となすべく決意を新たにして理想都市たる大徳山市建設を目指し戦後直ちに戦災復興計画立案に着手したのである。

かくして昭和二十一年十月九日戦災復興特別都市計画として指定され施工面積七四五、〇〇〇坪の区域を持って事業決定を受けて昭和二十二年三月二十八日区画整理の衝に当る工地区画整理委員会の発足とともに、戦災復興に着手、爾来この困難な事業を常に市民一体となって近代都市建設を目指し當々として努力してきた。

その後昭和三十年三月三十一日再検討五箇年計画により区域五五〇、〇〇〇坪に変更、更に事業を進め総事業費七億式千武百七拾九萬毫千圓をもって茲に戦災復興の完成を見るに至ったのである。

昭和三十五年九月二十八日
整理施行者
徳山市長 黒神直久

9 慰靈碑



基本情報

所 在：児玉公園
住 所：山口県周南市桜馬場通一丁目
(J R徳山駅 徒歩8分)
連 絡 先：個人であり記載せず
建 立 者：市民有志
建 立 年：昭和56年12月

碑 文

【慰靈塔・表】

慰靈碑

【慰靈塔・裏】

昭和五十六年十二月吉日建立



【台座・表】

御靈
安らかに
眠りたまえ

徳山市連合遺族会
徳山市戦災遺族会

【台座・裏】

芳魂録
(故人名)

平成六年四月吉日
徳山市連合遺族会
徳山市戦災遺族会

